

学校法人エリザベト音楽大学

2019(令和元)年度

2019(平成31)年4月1日から2020(令和2)年3月31日まで

事業報告書

1. 法人の概要

①建学の精神・教育理念・行動標語

【建学の精神】

大学の究極目的は、人間社会全体の形成であり、従って、個人の完成である。芸術は、人格の開発と表現のためにも、神との一致の道を切り開く人間相互の一致のための手段としても重要であることから、本大学は、人格完成を芸術、特に音楽の観点から強調するのである。

それゆえ、深く音楽芸術に関する理論および技能を教授研究するとともに、広く知識を授け、良識ある音楽家を育成することを旨とする。

1. 本大学は、カトリシズムの精神に基づいて創立され、かつそれを指導原理としている。
2. 本大学は、カトリック・イエズス会の教育方針に従い、一般教育科目および外国語科目にも力を注いでいる。
3. 本大学は、すべての人々は兄弟・姉妹であるという精神から、家族的雰囲気をもととする学生1人1人とのきずなを教育の礎としている。
4. 本大学は、一般音楽のほかに、グレゴリアン・チャント、ポリフォニーおよび現代宗教音楽等の教授・研究において他にみない特色を有している。
5. 本大学は、国際的な友好関係のもとに維持されており、日本古来の文化と西欧文明との融合をその究極の使命としている。
6. 本大学は、音楽芸術をとおして、神秘的観想の精神に達することを究極の教育理想としている。

【教育理念】

《 教養・実力・慈愛のある音楽家の育成 》

カトリシズム（普遍性）の精神に基づき、
幅広い教養・専門教育をとおして、
自分を高め、「他者のために生きる」人材を養成する。

音楽芸術および音楽教育に関する
理論、技能および実践の教授研究により、
真に芸術を愛し「美」の追求に真摯な人材を養成する。

平和を愛し、
地域社会および国際社会、とりわけアジア地域に
貢献する人材を養成する。

【行動標語】

音楽をとおして 私が変わり 世界を良くする人になる

②学校法人の沿革

年 月 日	沿 革
1947(昭和22)年9月	広島音楽教室開設(現エリザベト音楽大学付属音楽園)
1948(昭和23)年4月	県公認広島音楽学校開設
1950(昭和25)年1月	財団法人広島音楽学校に名称組織変更
1951(昭和26)年3月	学校法人広島芸術学園に名称組織変更
1952(昭和27)年3月	学校法人エリザベト芸術学園に名称組織変更
1952(昭和27)年4月	エリザベト音楽短期大学(2年制) 開設
1954(昭和29)年4月	宗教音楽専攻科(1年制) 設置
1959(昭和34)年4月	エリザベト短期大学と改称(音楽科3年制、宗教科2年制)
1961(昭和36)年12月	ローマ教皇庁立宗教音楽院の姉妹校となる(BMS宗教音楽士の授与認可)
1963(昭和38)年4月	学校法人エリザベト音楽大学に改称、4年制のエリザベト音楽大学昇格開設、3年制短期大学と宗教科廃止
1967(昭和42)年4月	音楽学部音楽学科宗教音楽専修を宗教音楽学科として増設 (音楽学科・宗教音楽学科の2学科編制)
1976(昭和51)年4月	音楽学部声楽学科、器楽学科増設 (音楽学科・宗教音楽学科を加えて4学科編制)
1980(昭和55)年4月	音楽専攻科(1年制) 開設
1990(平成2)年3月	音楽専攻科廃止
1990(平成2)年4月	大学院音楽研究科修士課程設置
1993(平成5)年4月	大学院音楽研究科音楽専攻博士後期課程設置
2001(平成13)年4月	音楽学部を改組、音楽文化学科、演奏学科開設
2003(平成15)年4月	音楽文化学科幼児音楽教育専修開設(幼稚園教職免許課程設置)
2006(平成18)年3月	音楽学科、宗教音楽学科、声楽学科、器楽学科の4学科を廃止
2011(平成23)年3月	日本高等教育評価機構から平成22年度大学機関別認証評価の認定
2018(平成30)年12月	新3号館竣工および既存施設(セシリアホール・1号館・本館・333教室等)改修完了
2018(平成30)年3月	日本高等教育評価機構から平成30年度大学機関別認証評価の認定
2018(平成30)年度	創立70周年記念事業コンサートシリーズ実施
2018(平成30)年8月	アセアック(ASEACCU: 東南・東アジアカトリック大学連盟総会・学生会議)の実施
2019(令和元)年度	セシリアホール開館40周年コンサートシリーズ実施

③設置学校の学部学科等学生定員・在籍学生数

当法人の設置する大学の学部学科等、学生数の状況は次のとおりです。

エリザベト音楽大学

音楽学部 (() 内は入学定員/収容定員)

音楽文化学科 (20人/80人)
 演奏学科 (60人/240人)
 合計 (80人/320人)

大学院音楽研究科 (()内は入学定員/収容定員)

修士課程

音楽学専攻 (3人/6人)
 宗教音楽学専攻 (2人/4人)
 声楽専攻 (3人/6人)
 器楽専攻 (12人/24人)
 合計 (20人/40人)

博士後期課程

音楽専攻 (3人/9人)

2019年5月1日現在における在籍学生数は、次のとおりです。

音楽学部

(単位:人)

大学院音楽研究科

(単位:人)

	1年	2年	3年	4年	計
音楽文化学科	15	9	9	14	47
演奏学科	38	44	47	42	171
計	53	53	56	56	218

	1年	2年	3年	計
修士課程	15	26		41
博士後期課程	0	2	1	3
計	15	28	1	44

④教職員

2019年5月1日現在における教職員の状況は、次のとおりです。

学長	教授	准教授	専任講師	専任教員計	兼任講師	専任職員	兼任職員
1	10	7	12	30	115	24	5

平均年齢 専任教員:48.9歳 専任職員:51.8歳

⑤役員・評議員

2019年5月31日現在における役員・評議員の状況は、次のとおりです。

種別	寄附行為の規定(選任条項)	定員	現員	氏名(敬称略)	
理事	第5条 第12条	(1)学長	1	1	川野祐二
		(2)評議員	2~3	2	中村英昭、木阪信子
		(3)学識経験者	1~2	1	山城宏樹
		(4)イエズス会日本 管区長の推薦者	1	1	梶山義夫
合計		5~7	5		
監事	第5条、第13条	2~3	3	大林泰人、三好彰、下崎 邦明	
合計		2~3	3		
評議員	第17条 第2項 第21条	(1)法人の職員	2~3	3	馬場有里子、柴田美穂、福原之織
		(2)学校卒業生	2~3	2	永岡敏彦、森佳代子
		(3)理事互選	5~7	5	川野祐二、中村英昭、梶山義夫、山城宏樹 木阪信子
		(4)学識経験者	6~7	6	三島豊、市川太一、村上健、飯田美智子、 大方幸一郎、白浜満
合計		15~20	16		

2. 事業の概要

(1) 大学経営の取組み

① 建学の精神・教育理念の実現のために

2019年7月末に、本学の設立母体であるイエズス会のアルトゥーロ・ソーサ総長が来日し、8月2日にエリザベト音楽大学を訪問されました。ザビエルホールにおいて、学生および教員により日本歌曲の歌唱と箏による歓迎の演奏会を行いました。ソーサ総長からは、「今日のイエズス会の使命と協働」についての講話がありました。本学学生・教職員、広島学院の生徒・教職員、さらに教会関係者など200人を超える方々が参加しました。

さらに2019年11月23日から26日にかけて、ローマ・カトリック教会の最高指導者である教皇フランシスコが来日されました。11月24日には、広島の平和記念公園において、「人類史に残る悲劇の傷に今なお苦しむ被爆者のために祈る」と語りました。学生・教職員有志はボランティアとして参列し、38年ぶりの来日であるローマ教皇のメッセージから貴重な励ましをいただきました。

毎年4月に開催されるゴーセンス記念講演会においては「時間の流れの中で」のテーマで、2020年2月には「イエズス会使徒職全体の方向づけ」のテーマで、建学の精神・教育理念に関する研修会が開催され、専任教職員はほぼ全員が受講しました。

2020年3月には、アジアのイエズス会の教育活動をサポートすることを目的として、タイにおいて学生による演奏活動を計画していましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により断念しました。

② 学生数確保の取組み

入学定員の確保のために、学生募集のさまざまな取組みを実施しました（詳細は後述）。特に、進学ガイダンス実施会場を、前年度の5会場から2019年度は沖縄を除く九州全県を含めた14会場に増やしました。また、業者主催による高等学校内ガイダンスにも、内容を精査しながら極力参加し、鮮度の高い情報収集に努めました。その結果、学生募集実績として入学定員（2020年）70人に対して76人の新入生が入学しました。

③ 中長期計画に沿った将来計画の策定

2019年度中に、施設・設備および財政に関する中長期計画の大幅な見直しは行いませんでしたが、施設・設備の経年変化（劣化）については、安心安全な施設・設備利用に必要な改修を着実に行いました。

西条キャンパスに関しては、地元自治体から校地購入の希望が伝えられたものの、年度途中で辞退する申出があり、あらためて利活用策の検討を継続して行います。

④ 入学定員数の変更

18歳人口および音楽を志す志願者の減少に伴い、さらに音楽学部全体の定員充足率の改善を図る目的で、2020年度から入学定員を10人減らして70人とする届を提出しました。

今後も個人指導を徹底して行い、本学の教育理念および人材養成に関する目的を実現し、「教養・実力・慈愛のある音楽家の育成」に着実に取り組む所存です。

⑤国際交流の推進

海外の新規の交流協定校については、5月にドイツの大学として2校目となるドイツ・フライブルグ音楽大学と交流協定を締結しました。また9月には、イタリアのミラノ・ヴェルディ音楽院とも同様な協定を締結しました。学生間の短期交換留学等、双方にメリットのある内容が盛り込まれました。

11月には、中国の四川音楽学院を表敬訪問し、両校間の今後の交流について協議を行いました。さらに同月、東北師範大学人文学院から代表団が来学し、今後の交流についての協議を行いました。

12月には、ベルギーのブリュッセル王立音楽院において、本学と共催でチャリティーコンサートを実施し、学生の交換留学に関する規程制定の協議を行いました。

(2) 教学について

①教学改革について

2018年度まで、インターネットを活用した学生の授業支援システムにおいて、2つの異なるツール（イーチ、マナ坊）を運用していましたが、学生や教職員の利用が容易になり、作業の効率化を図る目的で、「イーチ」に一本化しました。更に、新たにスマートフォン向けのアプリを導入して、学生が授業支援システムにアクセスしやすい環境を構築しました。

教育課程全体については、時代および学生のニーズに合わせたものにするべく2022年度の全面改訂を目指して、各学科・専攻・専修で綿密な検討を進めています。

[音楽文化学科]

音楽文化学科では、学びを魅力あるものに向かう体制づくりを基幹目標とし、より高度かつ専門性の高い充実した教育の達成のために、学科・専修の連携を密接にして、改革を行いました。

2019年度は、学生の基礎能力（学習スキル、思考力）の向上および平均化を図るため、学科内横断科目として2年生を対象とした「基礎演習」を新たに開講し、複数の教員が協力して実施しました。学生の現状把握のフィードバック、個々の学生のスキルアップに一定の成果が見られました。また、3、4年次の専門科目演習系科目についても、学生が抱える課題を解決し、より高度かつ柔軟な指導体制を構築するべく検討が深められました。

音楽文化専修では、柔軟な個人指導体制を取入れ、各領域の連携を深めると同時に、領域を超えた個人指導体制づくりの検討を行いました。

幼児音楽教育専修では音楽大学の幼児音楽教育にふさわしい音楽的能力と教育理論の融合を目指して、幼児期の音楽教育に必要な「動きと音楽」をテーマとし、動くことを中核に据えながら、器楽合奏や歌唱など、保育現場で実践可能な音楽指導に取り組みました。また、

植物公園でのクリスマスコンサートや、幼稚園・子育て支援施設での演奏会を開催し、社会貢献活動として、幼児、親子を対象とした音楽を楽しむ場を提供しました。

音楽コミュニケーションデザイン専修では、前年度から引続き、広島県・広島市・東広島市およびNPO法人との連携事業において、音楽イベント制作、舞台事業の制作協力、学生のアウトリーチ活動等、各種催しの企画協力などを行いました。また、社会貢献・連携事業を継続したほか、ひろしま美術館など、学生が広島市内外の音楽イベントに積極的に関わることで、学びを社会に還元することをとおして本学のブランディングに寄与する活動の促進を行いました。

[演奏学科]

演奏学科ではこれからの時代の学科の在り方について年間をとおして議論が行われました。その結果、特別奨学生入学試験（A0 特別選抜入学試験）を見直し、従来の選抜試験に加えて新たな特待奨学生を選考する入学試験を導入して、学生募集の充実を図ると同時に、カリキュラムにおける運用の一部変更を行いました。

演奏をとおした地域貢献として、8月と12月に、学生自らが企画する子ども向けの演奏会を実施し、演奏実習のひとつの可能性を示すことができました。海外協定校を含む多くの特別講師を招聘することにより、講座・公開レッスンを通じた研究の機会が学生に提供され、併せて海外の文化やトレンドを知る貴重な機会にもなりました。

本学主催の演奏会では本年度も年間をとおして多くの教員が出演し、レベルの高い演奏が好評を博しました。また、オーケストラ・合唱での学生の演奏機会も多く、授業あるいは特別練習において教員との共同作業による効果的な学習経験を数多くもつことができました。将来を見据えたカリキュラム改革については、さまざまな意見交換が学科内で行われましたが、具体化に向けて引続き検討を進めてまいります。

[大学院]

海外での留学生入学試験については、6月24日にフィリピン（会場：サント・トマス大学）で実施し、4人が合格しました。なお、これに加えて本学で受験した留学生もおり、中国、タイ、フィリピンからの計3人が合格しました。

国内外の著名な演奏家を招いた公開講座・公開レッスンとしては、10月4日にロシアの高名なピアニスト、ボリス・ペトルシャンスキー氏を招聘した公開レッスン（受講者2人）を実施しました。

魅力ある修士課程・博士後期課程とするための課題・改善策の検討、およびカリキュラム見直しについては、現在、各専攻内での問題点の洗い出しならびに改善策検討を行っており、今後、それらを集約しつつ、大学院全体としての検討を進める予定です。

②学生生活支援

学生の人的成長と自立を促すため、指導や啓発が必要な内容に関する合同オリエンテーションを実施し、学生会主催行事（大学祭、新入生歓迎会、クリスマスパーティ、募金活動など）の支援を行っています。学生生活センター室長を中心に、学生生活委員会を定期的に開催し、委員が互いに各学科・専修専攻での気付きを出し合い、連絡事項を持ち帰り、改

善に努めています。特に、生活面で悩みや課題を抱えた学生や障がいを抱えた学生については、学生相談室のカウンセラーや保健室の看護師、ホームルーム担任、実技担当者、学生生活担当者間で必要に応じ効果的に連携し、より充実した支援ができるように努めています。また、教員採用試験受検など学修面で悩みを抱えた学生については、個別面談を行い、状況に応じて具体的指導をしています。学力・演奏等の支援については、学習支援アシスタントから個別指導を受けることにより理解力や演奏技術の向上を図っています。

配慮の必要な学生については年度初めに授業担当者に伝え、授業の欠席状況等で変化の見られる学生については授業担当者から早期に状況の連絡を受けて、必要に応じ迅速かつ丁寧に対応を行うことで、学生が抱える諸問題の解決につなげています。

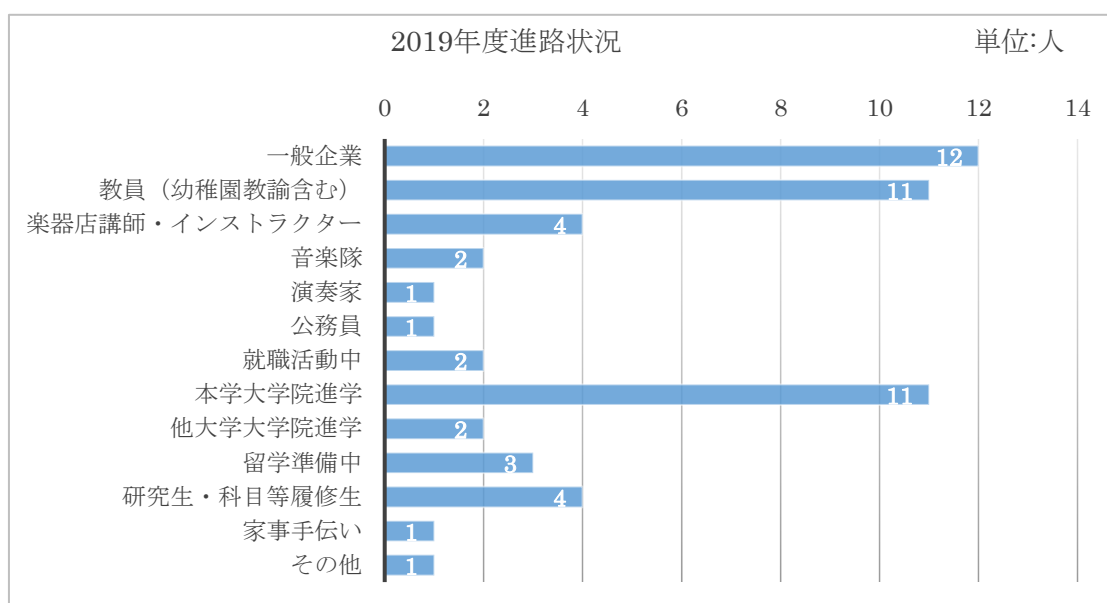
学生への連絡は、学生用ポータルサイト「イーチ」の活用がほぼ定着してきており、学生の生活面・行動面での自覚や自発的な行動を促すことに効果をあげています。

経済的支援については、大学等における修学支援新制度の確認大学として、日本学生支援機構の給付奨学金、大学の入学金・授業料等減免の迅速な対応にあたりました。奨学金受給学生がより充実した学生生活を送れるよう、面談・個別指導を実施し、健全な学生生活を送っているか把握し、意識の向上を促しました。

〔就職・進学サポートについて〕

キャリアサポート委員会、キャリア支援室、教養・教職主事、学生生活センター室長、学生生活担当者間で、相互の連携を強化しました。また、進路オリエンテーション、個別面談など、学生一人ひとりに向き合った就職・進路サポートを行いました。

2019年度の進路状況の内訳は次のとおりです。



学部卒業生 55 人の内、就職希望者 31 人に対する就職内定者数は 29 人で就職内定率は 93.5%です（2020年4月20日現在）。

2019年度は、本学大学院へ進学した者が多く、進学希望者は担当教員の指導により進路実現への道を切り拓いていきました。教職希望者については、経験豊富な教員の個別指導により、大学院修了生が中学校（音楽）教員採用試験に現役合格をいたしました。幼稚園教諭も希望者は100%幼稚園教諭として就職しています。

以上のように、各委員会や担当者間で連携をすることで、学生の希望に沿った進路支援を行い、効果をあげています。

③国際交流について

本年度は、次の国際交流のプログラム活動を実施しました。

海外交流協定校に関わる活動

月	交流協定校	国	内 容
6	フライブルク音楽大学	ドイツ	交流協定締結
6	サント・トマス大学	フィリピン	サント・トマス大学において留学生入試実施
9	ミラノ・ヴェルディ音楽院	イタリア	交流協定を締結し、ピアノマスタークラスを実施
12	ブリュッセル王立音楽院	ベルギー	共催でチャリティーコンサートを開催

その他、次の活動を実施しました。

4月、広島県の四川省友好締結35周年記念事業として、四川師範大学舞踊学院(中国)の学生たちによる四川青年芸術団文化公演がザビエルホールで開催されました。本学学生は交流会で声楽、サクソフォーン四重奏、日本伝統音楽研究会による和太鼓演奏を披露しました。

5月、「大邱(テグ)の日」として日韓親善協会および広島市平和文化センターが主催するフラワーフェスティバル・メインステージでのセレモニーで、山陽高校吹奏楽部の生徒と本学韓国留学生および日本人学生がジョイント演奏を行いました。

8月、第27回東南・東アジアカトリック大学連盟総会・学生会議(ASEACCU)が、韓国、西江(ソガン)大学で開催されました。「東アジア地域の和解と情勢」(Reconciliation and Situation in the East Asian Region)をテーマとし、7カ国の大学から150人を超える学生と教職員が参加しました。本学からは学長、専任教員1人、学生2人が参加しました。

④演奏活動

2019年度は、セシリアホール開館40周年コンサートシリーズをはじめ、多くの演奏会を開催しました。しかしながら2020年に入り、新型コロナウイルスの影響により、年度末の演奏会は、感染症対策を十分に行う中での開催となりました。

6月28日には、日本産業退職者協会広島支部との共催により、新任教員紹介を兼ねて、ソロ、室内楽の演奏会を開催しました。7月からセシリアホール開館40周年コンサートシリーズとして、7月4日には「鈴木俊哉リコーダー」コンサート、10月1日には「パイプオルガンコンサート」を開催しました。

10月19日の「第78回定期演奏会」では、指揮に柴田真郁氏を迎え、本学では初の本格的なオペラを上演（ハイライト上演）しました。

12月7日の「チャリティークリスマスコンサート」では、エリザベト音楽大学がスティーブ・ドブロゴス氏に委嘱した女声合唱曲「Ave Maris Stella」を、ドブロゴス氏自身のピアノ伴奏により、世界初演いたしました。募金およびコンサートの収益金は、東ティモールの聖イグナチオ学院基金とタイのザビエル・ラーニング・コミュニティに寄附を行いました。

その他の各演奏会の出演者等の詳細は次のとおりです。

2019年度エリザベト音楽大学コンサート

日 程	演奏会名・行事名・会場・出演者	備考
4/13(土)	第2回 ESpoir 新人演奏会(セシリアホール) エリザベト音楽大学、くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学 新卒者	
6/28(金)	「器楽の夕べ」(セシリアホール) ピアノ:久保千尋 作曲:川上 統 フルーツ:森川公美 クラリネット:品川秀世 ピアノ:戸梶美穂	
7/4(木)	セシリアホール開館40周年 「鈴木俊哉リコーダーコンサート」(セシリアホール) リコーダー:鈴木俊哉 チェンバロ・オルガン:福原之織	コンサート シリーズ①
10/1(火)	セシリアホール開館40周年 「パイプオルガンコンサート」(セシリアホール) パイプオルガン:福原之織、佐々木 悠、吉田仁美、桑山彩子 トランペット:村上俊也 ソプラノ:小林良子	コンサート シリーズ②
10/19(土)	セシリアホール開館40周年 第78回定期演奏会(セシリアホール) 指揮:柴田真郁 演奏:エリザベト音楽大学合唱団・交響楽団 出演:学生および専任教員	コンサート シリーズ③
11/8(金)	セシリアホール開館40周年 マーティン・ヒューズピアノリサイタル(セシリアホール) ピアノ:マーティン・ヒューズ(客員教授)	コンサート シリーズ④
12/7(土)	セシリアホール開館40周年 チャリティークリスマスコンサート (セシリアホール) 学生による演奏(フルートオーケストラ、ソプラノ・打楽器・ピアノ) 女声合唱(スティーブ・ドブロゴス作曲「Ave Maris Stella」) 指揮:寺沢 希 ピアノ:スティーブ・ドブロゴス 演奏:エリザベト音楽大学合唱団・弦楽合奏団	コンサート シリーズ⑤

日 程	演奏会名・行事名・会場・出演者	備考
3/5(木)	春季大学院新人演奏会(セシリアホール)	
3/8(日)	卒業研究発表・演奏会 音楽文化学科 (ザビエルホール) 卒業演奏会 演奏学科 (セシリアホール)	

⑤学生募集活動および広報活動について

〔学生募集について〕

受験生、音楽系志望の高等学校1・2年生、さらには中学生の情報まで、さまざまなチャンネルから集めることができるよう意識を高く保ち活動を継続しました。前年度から大きく変更した点として、中四国・九州での進学ガイダンス実施会場を増やしたことが挙げられます。2018年度は5会場での開催でしたが、2019年度は5月から8月までの期間に14会場でガイダンスを実施しました。同窓会とのネットワークを再活性化する契機につながった地域もあり、2020年度は更に積極展開し、大学の魅力発信・受験生情報収集につなげたいと考えます。

一方で年度終盤には、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、例年開催してきたスプリングフェスティバルを中止することになりました。この感染症拡大の状況は、次年度の募集活動にも影響が予想されており、慎重に対処してまいります。

受験生の情報収集にあたり、教員からの情報はプロスペクトに直結するものが多く、出前授業や学外での実技指導をとおした情報収集の機会を創出できるよう、高等学校の音楽教諭や部活動指導者、レスナーとの連携強化を継続させました。2019年度の出前授業を展開するにあたり、前年度実施件数(41件)を超えるよう積極的に提案しましたが、年度末には、新型コロナウイルス感染拡大のために開催中止になるケースが続出し、2019年度実績は28件でした。

業者主催の高等学校内進路ガイダンスへの参加件数も同様に、前年度実績(45件)を上回るペースで参加していましたが、終盤6件の中止があり、実績としては43件となりました。2020年度はさらに注力してまいります。新型コロナウイルスの影響を鑑みるならば、新たな募集活動の方策を検討する必要があります。

2019年度(2020年4月入学)の出願状況については、ここ数年の実績に比して好調に推移しました。出願者83人中、80人が受験し、76人が入学しました。出願者に占める入学者の割合は91.5%となり、従来の平均がおおよそ80%であったことと比べて特筆すべき数字となりました。

2020年度の学生募集では、新設された奨学金制度(特待奨学生入学試験、専願受験生奨学金、英語技能認定奨学金)を競合校対策の軸に据え、本学の価値伝達に一層注力してまいります。

〔広報活動について〕

大学案内や各種企画のパンフレットなど、高校生や高等学校の教諭、レスナーといったステークホルダーに読まれるツールは、読み手の目線に立って制作していくことに留意しました。「読みやすさ・親しみやすさ」を意識しながら、一方で大学のステータスや格調などを的確に伝えることができるよう、工夫を重ねて制作に臨みました。また、大学ホームページや各種 SNS を利用した情報発信については、更新頻度をあげるよう心がけました。さらに高校生が多用する SNS であるインスタグラムの活用を開始しました。今後は、大学の各種 SNS と募集イベントを連動させるなど、高校生を中心とした若い世代への訴求力を高めます。

外部団体、レスナーサークル等との良好な関係継続にも留意し、ステークホルダーから鮮度の高い情報が収集できるよう心がけました。また、広島県立美術館でのコンサートや市役所ロビーコンサートなど、行政との連携協定に基づいたイベントへの協力も継続し、その他、シヤレオ大学生コンサートやカワイ広島でのコンサートなど、本学と外部団体とが協力して行う各種イベントにおいても、円滑な運営をサポートしました。

大学の地域社会貢献と、学生の演奏機会の充実とを、バランスよく効果的に実施できるよう協力してまいります。

⑥教職員研修および教職員評価について

教職員研修としては、教職員および非常勤教職員を対象に研修の機会を設けました。

4月のゴーセンス記念講演では、本学評議員であるカトリック広島教区白浜満司教様から、「時間の流れの中で」のテーマで講演が行われ、専任教職員全員および非常勤教職員の希望者が受講しました。

9月の教職員研修会では、竹内発達障害支援コーポレーション代表の竹内吉和氏により「大学における障害のある学生との関わり」についての講演会を聞きました。同日の午後は、専任教職員による研修・出張報告、グループ討議（75&80周年のエリザベト音楽大学の方向性について）他を行いました。

2020年2月には、イエズス会社会司牧センター所長であり、本学の理事・評議員である梶山義夫神父様は、「イエズス会使徒職全体の方向づけ」のテーマで、専任教職員に講話を行いました。

教職員が参加した学外の研修会には、教育ネットワーク中国主催研修会、日本高等教育評価機構による大学認証評価セミナー他がありました。それらの成果は、日々の業務に活かされると同時に、他の教職員に対しても受講した情報を共有するために、自己評価・FD運営委員会および教職員研修会において、参加者に報告を行いました。

これらに加えFD活動の一環として、前期は5月7日から6月3日まで、後期は10月28日から11月30日までの間、授業参観期間を設け、専任教職員および希望する非常勤教職員による授業参観および意見交換を行いました。

教職員評価制度は過年度の試行を経て、なおも細部における理解が深められていない点もあり、実施するに至りませんでした。

(3) 管理について

① 土地・施設設備の概要

本学の現有土地・施設設備の状況は次のとおりです。

建物（単位：㎡）

			新築年月日 (登記簿記載日)	教室	演習室 (レッスン 室)	実習室 (自習室・ 院生研究 室含む)	研究室	図書室	管理用	寄宿舍	その他	合計
幟町学舎	旧神父館	鉄筋コンクリート 造陸屋根銅板葺4 階建	1979/7/10 (2015/2/17)	53	14	33	17	0	291			408
	1号館		1979/7/10	810	261	167	21		1,370			2,629
	本館	鉄筋コンクリート 造銅板葺5階建	1982/8/31	188	59		148		845			1,241
	2号館	鉄骨鉄筋コンク リート造陸屋根・ ステンレス銅板葺 9階建	1996/3/31	659	250	200	293	129	2,620			4,150
	3号館	鉄筋コンクリート 造陸屋根7階建	2016/8/31 (2017/3/27)	291	106	62	81	266	1,028			1,834
	4号館		1989/8/31	276	18	395	0	188	762			1,639
小	計			2,276	709	858	559	583	6,916	0	0	11,901
西条学舎	1号館	鉄筋コンクリート 造ステンレス銅 板・スレート葺2階 建	1987/7/24	729		0			670			1,399
	2号館	鉄骨造亜鉛メッキ 銅板葺平屋建	1964/12/31								243	243
	3号館	鉄筋コンクリート 造スレート葺平屋 建	1987/7/24		70				55			125
	4号館	木造瓦葺平屋建	1965/4/13								68	68
	5号館	鉄筋コンクリート 造スレート葺平屋 建	1987/7/24	48					24			72
小	計			777	70	0	0	0	749	0	311	1,907
学生寮(橋本町)		鉄骨鉄筋コンク リート鉄筋コンク リート造ルーフィ ング葺9階建	1985/1/30			0				2,431		2,431
総合計				3,053	779	858	559	583	7,665	2,431	311	16,239

* 使用中の建物は、耐震性を満たしている。(西条学舎 2号館、4号館は現在使用していない建物)

土地（単位：㎡）

	校舎等	運動場	その他	寄宿舍	合計	備考
幟町学舎	4,890				4,890	うち借地 872
西条学舎	27,594	8,279			35,873	
学生寮				637	637	
合計	32,484	8,279	0	637	41,400	

② 施設設備の改修等

今年度は、昨年度に引続き空調設備や外壁の修繕など施設設備の更新・改修が中心となりました。また、学内のインターネット環境の充実のために、無線アクセスポイントの追加工事を行いました。

セシリアホール開館 40 年目の 2019 年秋にホールの空調設備（エアコン）が故障しました。2020 年 6 月の修理完了を目指して工事内容の調査等を行い 2020 年度当初に工事に着手できるよう準備しました。

女子学生寮セシリアホームについては浴室の改修および厨房の空調修理を行いました。経年変化(劣化)による施設設備の修繕・更新が中心となりましたが、ソフト・ハードの両面から、早急な対応に心掛け、快適な設備環境での教育・研究が行えるよう努めました。

2019年度に行った主な更新・改修工事関係は次のとおりです。

月	内 容
5月	セシリアホール照明追加工事
8月	学生寮浴室改修工事
8月	防火設備修繕工事
9月	西条キャンパスフェンス撤去および設置工事
10月	2号館外壁補修工事
11月	2号館空調更新工事
11月	学生寮ボイラー室給湯管の修繕工事
11月	院生研究室無線アクセスポイント設置工事
3月	学生寮厨房エアコン修繕工事
3月	教室等無線アクセスポイント設置工事

③付属音楽園

付属事業である付属音楽園では、音楽園と大学教育の連携を深めるさまざまな取組みを実施し、音楽園講師演奏会、オーディションにより選ばれた園生による発表会、希望者全員が出演するコンサート、合唱団プエリカンタンテスによる合宿およびコンサートなど、年間をとおして行われる行事と募集活動(体験レッスン・見学会)により、在園生の魅力および満足度をあげる努力を行いました。しかしながら前年度と比較して、在園生は若干減少しました。引続き音楽園の諸活動を活性化させ、募集活動の充実を図ります。

エクステンションセンターにおいても、年度計画にあげた講座およびレッスン指導の実施のみならず、海外から実力のある指導者の特別レッスン等が生まれ、在学生および卒業生等学外者に対しても充実したプログラムが実施されました。

3. 財務の概要

(1) 決算の概要

①貸借対照表の状況

有形固定資産は、学舎の空調設備更新工事 175 百万円等を実施したことを主因として、減価償却控除後の残高は、前年度末比 55 百万円増加して、3,333 百万円となりました。

特定資産は、上記の空調設備更新工事 175 百万円の実施に伴い減価償却引当特定資産を一部取り崩した一方、第 2 号基本金引当特定資産 200 百万円を組入れるなど、前年度末比 139 百万円増加して 10,083 百万円となりました。

その他の固定資産は、前年度末比ほぼ同額の 569 百万円となりました。

流動資産は、現預金が 11 百万円、有価証券が 48 百万円それぞれ増加した一方、未収入金が 38 百万円減少したため、前年度末比 20 百万円増加して、880 百万円となりました。

資産の部合計は前年度末比、213百万円増加して、14,865百万円となりました。

負債の部は、退職給与引当金が11百万円減少した一方、前受金が21百万円増加したことを主因として6百万円増加して、377百万円となりました。

基本金は、第1号基本金への組入れ197百万円や第2号基本金の組入れ200百万円により397百万円増加して、13,076百万円となりました。

繰越収支差額は、190百万円減少して1,412百万円となり、基本金と合計した純資産額は207百万円増加して、14,488百万円となりました。

財務基盤の充実化が図れました。

②収支計算書の状況

ア) 事業活動収支計算書

当年度の教育活動収入は、予算を8百万円上回り579百万円となりました。前年度比、101百万円の減収となっています。

収入の主な内訳は、学納金が予算を9百万円下回り414百万円、経常費等補助金も予算を18百万円下回り63百万円となった一方、寄付金が予算を32百万円上回り37百万円となりました。

当年度教育活動支出は、予算を42百万円下回り957百万円となりました。前年度比、10百万円の減少となっています。支出の主な内訳は、人件費が予算を下回り455百万円、教育研究経費が予算を下回り413百万円、管理経費が予算を下回り88百万円となりました。

教育活動収支差額は、予算を51百万円上回りマイナス377百万円となりました。

教育活動外収入は、予算を上回り490百万円となりました。前年度比、14百万円の減収となりました。

教育活動外収支差額は、予算を5百万円上回り490百万円となりました。

特別収入は、予算を下回り147百万円、前年度比、90百万円の減収となっています。

特別支出は、予算を3百万円下回り52百万円となりました。前年度比、25百万円の減少となっています。

特別収支差額は、予算を下回り95百万円となりました。

基本金組入前当年度収支差額は、予算を66百万円上回り207百万円となりました。

基本金組入後の当年度収支差額は、マイナス190百万円となり、前年度繰越収支差額1,602百万円に加算し、翌年度繰越収支差額は、1,412百万円となりました。

イ) 資金収支計算書

当年度の施設関係支出は、学舎の空調設備更新工事等で177百万円となりました。

設備関係支出は、教育研究用機器備品の充実などにより26百万円となりました。

ウ) 活動区分資金収支計算書

教育活動による資金収支差額は、マイナス181百万円となりました。施設整備等活動による資金収支差額は、マイナス325百万円となりました。その他の活動による資金収支差額は、プラス516百万円となりました。これらにより、当年度支払資金は11百万円増加して、

前年度繰越支払資金 161 百万円に加算して、翌年度繰越支払資金は 172 百万円となりました。

(2) 経年比較

①貸借対照表

(単位：千円)

	2015 年度末	2016 年度末	2017 年度末	2018 年度末	2019 年度末
固定資産	12,364,432	13,158,719	13,238,443	13,791,584	13,984,981
流動資産	1,286,757	841,071	1,061,614	860,433	880,035
資産の部合計	13,651,189	13,999,790	14,300,057	14,652,017	14,865,016
固定負債	360,237	337,365	317,712	297,226	285,285
流動負債	78,571	82,477	79,780	74,109	91,990
負債の部合計	438,808	419,842	397,492	371,335	377,275
基本金	11,894,466	12,188,206	12,431,894	12,679,131	13,076,178
繰越収支差額	1,317,915	1,391,742	1,470,671	1,601,551	1,411,563
純資産の部合計	13,212,381	13,579,948	13,902,565	14,280,682	14,487,741
負債及び純資産の部合計	13,651,189	13,999,790	14,300,057	14,652,017	14,865,016

②収支計算書

ア)資金収支計算書

(単位：千円)

収入の部	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
学生生徒等納付金収入	494,484	483,203	453,317	461,602	413,988
手数料収入	6,639	7,079	7,287	5,843	7,425
寄付金収入	33,536	2,417	12,030	7,994	36,852
補助金収入	69,811	89,961	107,087	101,057	62,626
資産売却収入	1,532,470	725,319	807,856	1,457,992	891,407
付随事業・収益事業収入	38,672	39,222	41,267	38,701	34,744
受取利息・配当金収入	500,033	467,985	496,915	503,964	489,909
雑収入	28,055	36,253	17,358	64,757	12,745
借入金等収入	20,000	10,000	0	0	20,000
前受金収入	68,040	72,124	68,059	60,755	81,553
その他の収入	1,008,805	654,375	826,690	879,955	916,270
資金収入調整勘定	△115,296	△95,306	△72,862	△107,331	△61,604
前年度繰越支払資金	334,602	559,245	177,697	122,967	161,068
収入の部合計	4,019,851	3,051,877	2,942,701	3,598,256	3,066,983

支出の部	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
------	---------	---------	---------	---------	---------

人件費支出	489,218	487,255	474,707	534,014	455,350
教育研究経費支出	274,300	225,371	272,517	237,888	279,567
管理経費支出	59,394	59,933	68,851	77,627	73,280
借入金等利息支出	9	9	0	0	16
借入金等返済支出	20,000	10,000	0	0	20,000
施設関係支出	559,602	411,035	24,122	36,202	177,012
設備関係支出	7,944	64,799	29,720	26,851	26,448
資産運用支出	2,028,116	1,601,816	1,939,868	2,489,477	1,852,620
その他の支出	30,906	20,882	21,053	48,241	19,282
資金支出調整勘定	△8,884	△6,920	△11,104	△13,112	△8,432
翌年度繰越支払資金	559,246	177,697	122,967	161,068	171,840
支出の部合計	4,019,851	3,051,877	2,942,701	3,598,256	3,066,983

イ)活動区分資金収支計算書

(単位：千円)

科目	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	671,196	658,136	638,346	679,955	568,380
教育活動資金支出計	822,912	772,559	816,075	849,529	808,196
差引	△151,716	△114,423	△177,729	△169,574	△239,816
調整勘定等	△46,952	△4,749	23,350	△46,697	59,086
教育活動資金収支差額	△198,668	△119,172	△154,379	△216,271	△180,730
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	637,216	346,333	442,594	149,063	280,136
施設整備等活動資金支出計	1,332,814	1,058,401	288,732	718,062	603,562
差引	△695,598	△712,068	153,862	△568,999	△323,426
調整勘定等	0	0	0	4,774	△1,146
施設整備等活動資金収支差額	△695,598	△712,068	153,862	△564,225	△324,572
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	△894,266	△831,240	△517	△780,496	△505,302
その他活動による資金収支					
その他活動資金収入計	2,423,109	1,490,822	1,661,600	2,692,108	1,998,177
その他活動資金支出計	1,303,282	1,040,757	1,719,136	1,872,899	1,481,032
差引	1,119,827	450,065	△57,536	819,209	517,145
調整勘定等	△918	△373	3,323	△612	△1,071
その他活動資金収支差額	1,118,909	449,692	△54,213	818,597	516,074

支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	224,643	△ 381,548	△ 54,730	38,101	10,772
前年度繰越支払資金	334,602	559,245	177,697	122,967	161,068
翌年度繰越支払資金	559,245	177,697	122,967	161,068	171,840

ウ) 事業活動収支計算書

(単位：千円)

科目		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	494,483	483,203	453,317	461,602	413,988
	手数料	6,639	7,079	7,287	5,843	7,425
	寄付金	33,536	3,786	12,030	8,389	36,852
	経常費等補助金	69,811	89,961	107,087	101,057	62,626
	付随事業収入	38,463	39,222	41,267	38,701	34,744
	雑収入	28,055	36,253	37,011	64,757	23,540
	教育活動収入計	670,987	659,504	657,999	680,349	579,175
	事業活動支出の部					
	人件費	464,899	464,382	474,707	509,900	455,349
	教育研究経費	359,931	328,397	396,963	364,665	413,280
	管理経費	72,660	73,201	82,580	92,129	87,996
	徴収不能額等	0	0	0	0	0
	教育活動支出計	897,490	865,980	954,250	966,694	956,625
	教育活動収支差額	△226,503	△ 206,476	△ 296,251	△ 286,345	△ 377,450
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	500,033	467,985	496,915	503,964	489,909
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	500,033	467,985	496,915	503,964	489,909
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	9	10	0	0	16
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
教育活動外支出計	9	10	0	0	16	
教育活動外収支差額	500,024	467,975	496,915	503,964	489,893	
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	79,050	108,152	149,112	236,946	146,895
	その他の特別収入	0	0	0	399	0
	特別収入計	79,050	108,152	149,112	237,345	146,895
事業活動支出の部						

	資産処分差額	23,325	2,085	26,428	76,847	52,279
	その他の特別支出	0	0	732	0	0
	特別支出計	23,325	2,085	27,160	76,847	52,279
	特別収支差額	55,725	106,067	121,952	160,498	94,616
	基本金組入前当年度収支差額	329,246	367,566	322,616	378,117	207,059
	基本金組入額合計	△ 75,064	△ 403,719	△ 243,741	△ 247,238	△ 397,046
	当年度収支差額	254,182	△ 36,153	78,875	130,879	△ 189,987
	前年度繰越収支差額	1,063,733	1,317,915	1,391,742	1,470,671	1,601,550
	基本金取崩額	0	109,980	54	0	0
	翌年度繰越収支差額	1,317,915	1,391,742	1,470,671	1,601,550	1,411,563

(参考)

事業活動収入計	1,250,070	1,235,641	1,304,026	1,421,658	1,215,979
事業活動支出計	920,824	868,075	981,410	1,043,541	1,008,920

(3) 主な財務比率比較

比率名	算式	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額	26.34%	29.75%	24.74%	26.60%	17.03%
	事業活動収入計					
基本金組入後収支比率	事業活動支出	78.37%	104.35%	92.56%	88.86%	123.20%
	事業活動収入計-基本金組入額					
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金	42.23%	42.86%	39.25%	38.98%	38.72%
	経常収入					
人件費比率	人件費	39.70%	41.19%	41.10%	43.05%	42.59%
	経常収入					
教育研究経費比率	教育研究経費	30.74%	29.13%	34.37%	30.79%	38.66%
	経常収入					
管理経費比率	管理経費	6.20%	6.49%	7.15%	7.78%	8.23%
	経常収入					
流動比率	流動資産	1637.70%	1019.76%	1330.68%	1161.04%	956.66%
	流動負債					
負債比率	総負債	3.32%	3.09%	2.86%	2.60%	2.60%
	純資産					
純資産構成比率	純資産	96.79%	97.00%	97.22%	97.47%	97.46%
	負債+純資産					
基本金比率	基本金	100%	100%	100%	99.96%	99.97%
	基本金要組入額					
教育活動資金収支差額比率	教育活動資金収支差額	△33.76%	△31.31%	△45.02%	△42.09%	△65.17%
	教育活動資金収入計					

(注)「経常収入」＝教育活動収入計＋教育活動外収入計

(4)その他

①有価証券の状況

区分	銘柄 数量	帳簿価格 (千円)	時価 (千円)	表示科目	摘要
債券	外国債券 86口	8,186,901	8,290,668	第3号基本金引当特定資産ほか	
	外国債券 5口	428,163	378,734	有価証券	翌年度満期
	円貨債券 0口	0	0	減価償却引当特定資産	
株式	株式 23銘柄	1,637,611	2,296,736	第3号基本金引当特定資産ほか	
投資信託	なし				
貸付信託	なし				
その他	REIT 11銘柄	821,664	908,660	減価償却引当特定資産ほか	
	外貨MMFほか	281,798	238,538	有価証券ほか	
計		11,356,137	12,113,336		

②借入金の状況

該当なし

③学校債の状況

該当なし

④寄付金の状況

寄付金の種類	寄付者	金額(千円)	摘要
75周年記念募金	同窓会	1,049	
奨学資金ほか	後援会ほか	3,643	
一般寄付	篤志家	32,160	

⑤補助金の状況

私立大学等経常費等補助金	一般補助	58,294千円(昨年比 62%)
	特別補助	3,325千円(昨年比 53%)
若手女性研究者奨励金		400千円(昨年比 ー)
市町村補助金		607千円(昨年比 115%)

⑥収益事業の状況

該当なし

⑦関連当事者との取引状況

該当なし

以上、法人の概要、事業の概要および財務の概要について報告いたしましたが、これから本学にとってまだまだ厳しい状況が続くことが予想されます。今後も、大学教育研究の充実、経営基盤の確立に向けて、教職員一丸となり、日々努力してまいります。皆様のご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。